

地域デザイン学会 | 第5回合同フォーラム



地域デザイン学会

The Association of Design about Strategy for Zone Industry and Zone Brand



ポップな発表となりますが  
現場第一の**実装ラボ**ですので

やさしい気持ちで

ご覧いただければ幸いです

by プロデューサー 吉田

# 実装ラボの挑戦

地域の課題解決につながる  
知識融合の可能性

本日の報告

実装ラボの歴史

# 登場人物：実装ラボ主メンバー



笥田 聡

株式会社 Key-Performance  
代表取締役

- ・ 実例をつくる



吉田 賢一

株式会社 産学共同システム研究所  
主席研究員

- ・ 学会に資する攻究を行う

# ZTCAの使い方例

対象者：現場活動者 🖐️ **ここに居るフォーラム運営者!**

目的：区域における価値創出・課題解決  
学会のミッション 🖐️

裏目的：「**自分の現場活動の土台を作る理論**」

「**現場でリーダーシップを発揮するための理論**」

…として活用してほしい!

# ZTCAデザインモデルとは？

## Zone：区域設定

自由度「発展性・転調性」を持つ（理論を牽引する要素）

## Tops：場・団体

区域を活性化させる象徴

例：藤沢観光を盛り上げる「江ノ島」

ZONE DESIGN  
ゾーンデザイン

TOPOS DESIGN  
トポスデザイン

CONSTELLATION  
DESIGN  
コンステレーション  
デザイン

ACTORS  
NETWORK  
DESIGN  
アクターズネットワーク  
デザイン

## Constellation：チーム編成（座組）

潜在的協力者を抱える

& 動作主体（登場人物）が文脈に沿って活躍できる

## Actors network：潜在的つながり

チームを最善化する（例：野球なら、ベンチ・二軍・他チームの選手）

# 活動圏デザイン

活動主体が自身の活動圏を認識し  
楽しむことで活動圏が広がる

分析はできたが…  
どうやって活動圏を創るの？

現場で生み出せない問題

ZTCAは事例を研究・分析する理論として発展

現場での実用性・再現性の論証が少

運用言語としてモデルが難解

現場を踏まえず議論が空転？

# 実装ラボ

## ZTCAの実用化

実践から得た知見をZTCAに反映させる

第一段階：実地検証チーム

# 活動方針

ZTCAを

区域の価値創出・課題解決するための

ツールとして**実用する**には…

**取扱説明書** (マニュアル) **が必要**

実用ノウハウを得るため

ZTCAを使って

地域共創コミュニティ

をつくってみる

地域共創コミュニティ創出の手がかり  
まず自分たちの得意に取り組む

「知識融合」を提供してきた実績

起業茶屋®

人間観察サロン™

千住ビジョン





起業茶屋®



Key-Performance Inc.



千住とシブ  
北千住の問題 解決するには  
大10-70-  
個人に2000円に  
増し、7-31  
19-2000円  
解決するには  
個人に2000円に  
増し、7-31  
19-2000円

地域の課題解決・価値創出に取り組むため

テーマは「まちづくり」

地域共創コミュニティ準備会で挙げた

# 地域が盛り上がり欠ける理由

「面白い人」は、明確な主張と区域を持ち

「知る人ぞ知る」→ 地域内交流が少

他団体との協力・連携の動機が弱くバラバラ

全体的なムーブメントが起こりづらい

# 地域共創コミュニティの設計

面白いゲストを招いて話を伺い 地域課題を掘り起こし

その後の参加者同士が双方向で話せる懇親の場を提供

継続的に行いムーブメントの土台となる

MCイメージは ブレンダー（調合師）

「地域人材の発掘・紹介」継続型サロン

## 地域クロストーク™

（別名：地域知見交流会）

LOCAL KNOWLEDGE MEETING

# 地域クロストーク

第1回：若者との関わり方

ゲスト：ちゃんみよさん / 高瀬唯先生  
ちゃんみよTV 茨城大学

'23, 2, 25 土 19:00~20:30

【うしくの図書館“つながり”】牛久駅 東口 徒歩1分 牛久駅前ビル

主催：NPO地域知見交流会

2月25日(土)

【満席】地域クロストーク 第1回 牛久&阿見 | 2/25 土 19:00~  
20:30

うしくの図書館 つながり

大西敦さん、湯原 隆晴さん、他友達25人

参加予定

# 地域クロストーク™ 始動

ZTCAで戦略的に実施したこと

Zone

市町村に囚われない区域 (ゾーン) 設定 → 茨城県 牛久市 & 阿見町を中心に

Tops

互いの知見「知識・経験・情報」をブレンドする場 → 牛久駅前図書館「つながり」

Constellation

地域の面白い人たちで盛り上がる → 「よそ者 ばか者 わか者」への声掛け

Actors network

地域の地縁と知縁、パワーエリート、行政、学生、主婦、NPO、学校 ……



# 地クロで見えてきた要点①

△ 市町村は人為的に再編・合併されてきた

→ 区域の結合度・存在意義が弱く 経済効率が悪い

→ 市町村起点のデザインでは地域の「価値」が最大化されない

△ 有力な個人の勘・経験で地域を盛り上げられる時代ではない

地域プライドを軸に区域Zを設定し  
人を束ねていく

地域プライド (Civic Pride) とは

地域への「愛着・誇り・共感」を持ち

「地域をより良くするため自ら関わっていこうとする心意気」

## 地クロで見えてきた要点②

事業者の経済理論を判断の土台にしない

住み心地の良いまちづくりを  
目的とした体制を望む

# 地域共創を実現するために

1. 市町村で区切らない効果的な地域設定

2. 住み心地の良いまちづくりを

目的とした共創体制の創出

をZTCAで効果的に実現する

# 地クロの反省点

6回の地クロを踏まえて

相次いだ意見

- もっとゲストと対等に話したい
- 第二部の懇親会もぜひ続けてほしい
- 終了後 専門的な参加者に相談しやすくしてほしい

みんな話者になりたい問題

ゲスト登壇形式ではなく  
みんなて話せる座談会形式へ

# 参加者を観察して見えてきたこと

地域イベント参加者は…

アイデンティティの強化

地域を好きになるキッカケ

地域で話し合える人

学び・レベルアップ

を求めている！

地クロ参加者を見ていて思ったこと

# 今後 地域イベントに搭載すべき機能

- ・ 地域づくりに関わる理由は、**地域が好き**だから！
- ・ **地域を知っている**からこそ良い地域にしたい
- ・ 地域への「愛着・誇り・共感」が**主体的な行動**を起こす

「**地域への愛着・誇り・共感 = I love 地域♡**」を育む

1. 共創の場づくり👍

2. プロジェクトの発現

3. プロジェクトの実績

共創コミュニティの出だしは…

区域Zのキーマンとつながる

区域Zの関係者を集める

認識を共有する

 ZTCAで全体を構想し進めていく！

地域共創の場を運営しつづけるため

# NPO法人設立

特定非営利活動法人

# 地域知見LIVE

2023年 8月 設立



# 具体的な課題が挙がらない問題

ただの団欒・雑談の場で 課題解決の場になってない…

どこかで聞いたような課題は挙がるが

- ・ 個別具体的な課題
- ・ あなたが直接抱えている課題

が出てこない…

課題挙げの決定版

リビングラボ構想

# リビングラボとは？

「生活空間 (Living)」を

「地域をより良くするモノ(政策・商品・サービス)を研究・共創する場 (Lab)」とし

住民の声を起点に多様な主体者(住民・大学・企業・行政・専門家)が

議論・協働を重ねてアイデアを実現していく

**「住民による 住民のための まちづくり!!」を実現する場**

実装ラボの運営体制に

リビングラボを活用するはずだったが…

先に**地域の現場**で使ってみよう！ by 笥田

# リビングラボの取り組み方

1. 課題設定 → 住民・ユーザー
2. 計画立案 → 士業・企業・行政・議員
3. 改善行動 → 計画に沿って共に
4. 調査検証 → 住民・専門家

1 から 4 を繰り返し 地域課題を解消していく！

# 1. 課題設定のやり方

## ① 会話雑談

→ 区域課題の種を見つける

## ② 知見交流

→ 知識融合で課題・改善点を整理する

# リビングラボのメモ

既存の公共制度や民間サービスでは  
救えない・汲めない事例がある

例 行政・専門窓口に行く前にリビングラボに相談

→ 情報共有と相談相手の確認紹介をしてもらう

# リビラボの注意点

- 住民が参加しやすい場所にてできるか？  
→ 写真・議事録を公開（事前にイメージを提供する）
- 意見がまとまるか？  
→ ファシリテーターを設定する
- 個人課題を公共に持ち出すリスクは許容できるか？  
→ 今は出てないが 今後 注意すべき課題

# リビングラボ 始動!

ZTCAで戦略的に実施したこと

## Zone

市町村ではない区域 (ゾーン) の設定 → 茨城県 阿見町

## Tops

地域や生活者の課題解決を目的に、

お互いの知見「知識・経験・情報」をブレンドする場 → 阿見リビングラボ

## Constellation

地域の面白い人たちと紡ぐ物語の蓋然性 → 「よそ者、ばか者、わか者」の関与

## Actors network

地域の地縁と知縁、パワーエリート、行政、学生、主婦、NPO、学校 ……

# 実際にやってみた!



# リビングラボの流れ

世間話をしながら……

「気になること・悲しいこと・残念なこと  
不安なこと・心配なこと」を話していく。

(可能なら専門家も交えて)  
話題を共通課題にすべく言語化する

# リビングラボのポイント

- 解決に向けた話なら、それは愚痴ではない！
- 個人の負の感情を肯定的な活動に積極的に変換しよう！

個別具体的な課題

あなたが直接抱えている課題

が出ないことが課題だったのですが…

無事に課題が挙がりました！

ポイントは

世間話・雑談でできる**心理的安全空間**

心理的安全空間をつくる

「不安を取り除くこと」に尽きる

年配者自己主張問題発生

発言ルールを設定する



# 新宿ワープ回

共通課題化できない問題

参加者を  
区域Zの設定で縛る

# リビラボを開催して見えたこと

地域には……

ZTCAを理解し

個人の問題を地域の共通課題に言語化し

現状に即して方向性を示し動き続けられる

土地・金の利権が絡む従来型地域エリートとは別次元の

**共創の場を牽引するリーダーが必要!**

# リビングラボとZTCA&学会

- リビングラボの実践で  
演繹的にZTCAのコツが見えてくる！
- リビングラボの実践が  
理論の強化と学会の発展につながる！
- ZTCAをリビングラボ型の共創現場づくりに活用し  
学会内に現場活動者・現場活動事例を増やしていきたい
- 活動の結果 学会が輝くものに

1. 共創の場づくり

2. プロジェクトの発現 🍌

3. プロジェクトの実績

# 現場実践で見えてきたこと

1. 特定テーマを持つ人を集める
2. 共通課題を見出す
3. プロジェクト化する
4. プロジェクトを進捗させる

# 実装ラボの第一段階

ZTCAを「区域の共創体を生む理論」として  
使えるようになってきている

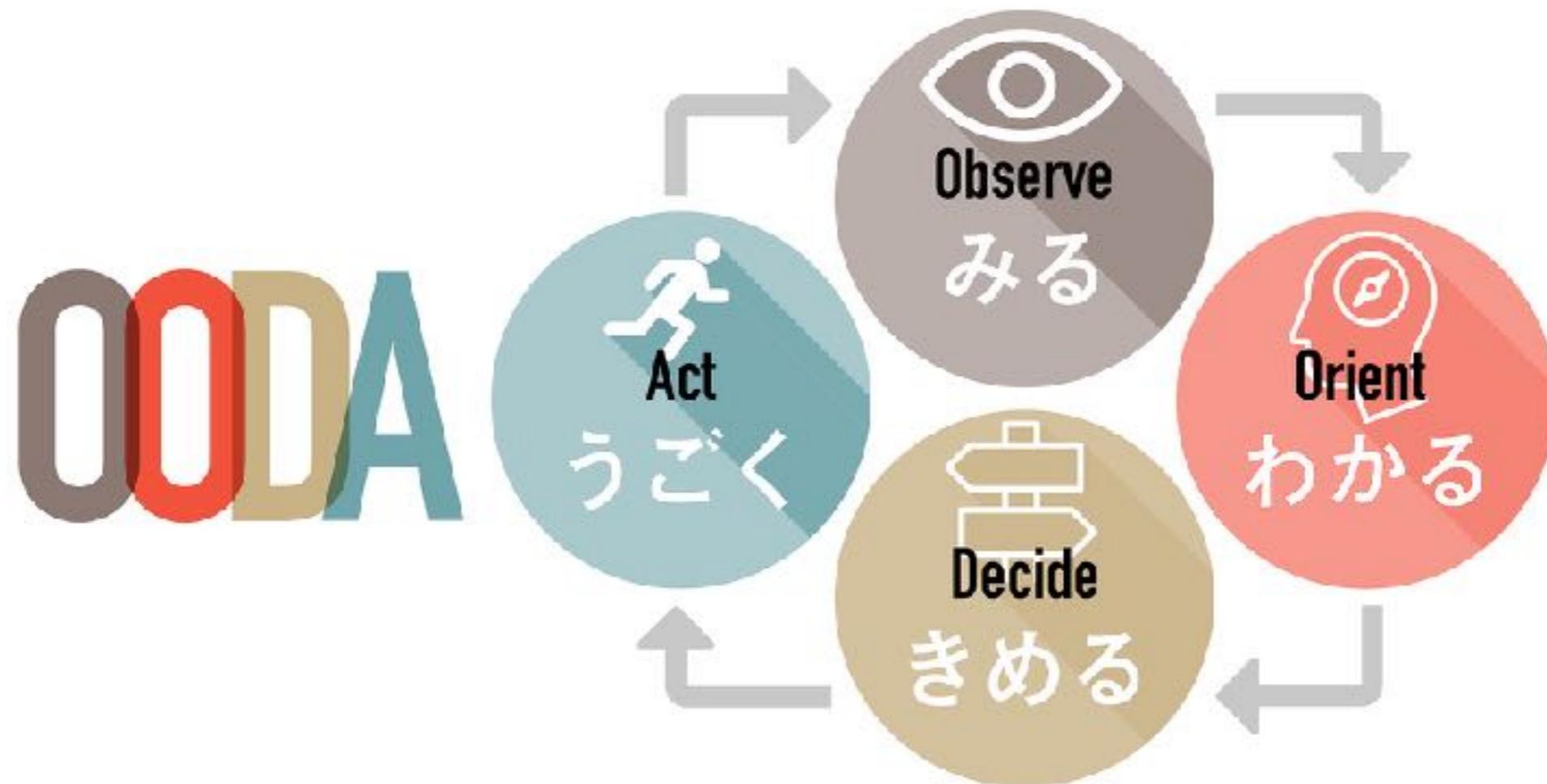
## ZTCAの利点 1】

脳は同時並行処理をできないが

ZTCAは微調整しやすい

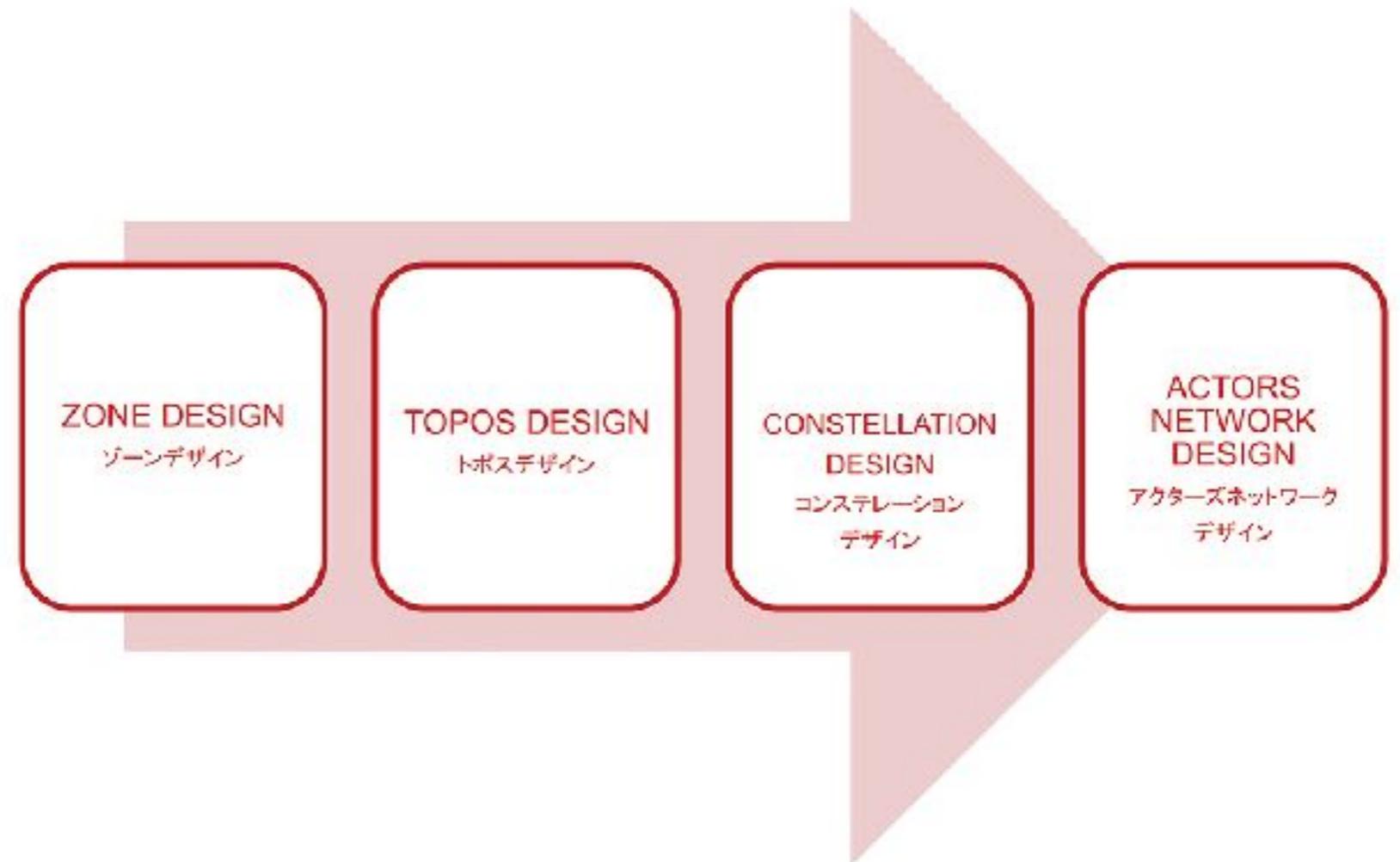
※ 柔軟で適応力があるので実用しやすい

ZTCAは 同時並行かつ  
フェーズによって振り返れる  
OODAループ的機能を持つ



## ZTCAの利点 2】

# ZTCAで勘所が冴える



# ZTCAの使い方】

「人のつながり」から

「**区域Z**」が見えてくる

△ つながりがない場合

推奨：地域人観察ツアーリズム

# ZTCAの使い方例

対象者：現場活動者  ここに居るフォーラム運営者！

目的：区域における価値創出・課題解決  
学会のミッション 

裏目的：「自分の現場活動の土台を作る理論」

「現場でリーダーシップを発揮するための理論」

…として活用してほしい！

# 地域共創イベント

10回のイベントを重ねて変化したこと

## < 仮説的指標 >

地域理解度 UP

地域活動力 UP

地域内共創機運 UP

課題：数値評価が  
出来ていない問題

仮説的指標等を  
数値で捉える方法を見出す

# 2024年, 予告

# 実装ラボ 学会内での方針

学会内フォーラム群の相互交流を促し

横のつながりを確保するとともに

全体がZTCAを軸とする共創チームとして

学会をより活動的に発展させていく

# 実装ラボの展望

リビラボを実践

実践現場を起点に調査・研究の機能を強化

学会内外の地域共創の取り組みに

ZTCAを踏まえた提案・支援を行う

関係者の円滑な連携を促す

# 実装ラボの今後の展開

- 地域共創コミュニティの運営（リビラボ、クロト等）
- ZTCA普及支援&コンサル（例：非会員参加OKの勉強会）
- ZTCA実践者連携 & 情報集積（実践データ・課題の抽出）
- ZTCA勉強会 & 分析会（学会内部の成果検証）
- ZTCA実践マニュアル作成 → 案を学会側に提案

マニュアル（手引書）  
骨子づくりに取り掛かる

# ZTCA理論の取組み型と可能性

## サプライヤー型 | supplier model

ZTCA4因子のいずれからでも戦略的に地域価値を発現できるように理論を深める

## オムニチャネル型 | omnichannel model

地域で鍵となるゾーンを設定するため、他の学問領域「デジタル技術・心理学的知見・哲学的思考」の概念的なノウハウ・知見を取り入れる

## エコシステム・ドライバー型 | ecosystem driver model

シェアリング時代に地域ガバナンスを機能させる地域活性プラットフォームとして、圏概念とカテゴリーの連携により物理的地域・機能的地域を交えて、新しい活動圏の創出基盤となる

## 製造者型 | modular producer model

ICT活用によるZTCAのDX化で、想像を超えた圏域を創出する

参考出典 | Weill, P. and S.L. Woemer (2015) "Thriving in an Increasingly Digital Ecosystem," MIT Sloan Management Review,

<https://www.scinapse.io/papers/2255721751#fullText> (2022.12.1 アクセス)

西日本：大阪ラボ】

# 吹田商店街まちづくりラボ

令和の時代の大学のあるまちづくり

地域人を巻き込むため

商店街の中にラボを導入する構想

東日本：茨城ラボ】

阿見リビンングラボ

2024年 1月 5日 開設

さあ、みんなで共創だ!!

地域課題解決につながる知識融合の可能性

# 質疑応答